

呼吸器外科／心臓血管外科研修プログラム

当科の対象疾患は

心臓血管外科疾患（虚血性疾患、弁膜症、大動脈瘤、不整脈治療など）

呼吸器外科疾患（肺癌、肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸など）

末梢血管外科疾患（閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞症、透析シャントなど）

であるが、1年目の4週間を外科研修の一環として呼吸器外科および心臓血管外科で研修する。

呼吸器外科および心臓血管外科手術手技の修得が目標では無く、疾患の理解、術後の管理が主となる。手術は基本的に手洗いして参加するが、1年目研修では、縫合や糸結び、点滴ラインの取り方、創の管理など基本的手技が中心となる。

2年目に選択で研修する場合は、手術手技の修得の比重が大きくなる。心臓血管外科領域では開胸手技を体験する。末梢血管外科手術では血管縫合を体験する。

I プログラムの一般目標 (GIO)

呼吸器外科、心臓血管外科疾患を有する患者に対して、適切な治療ができるために、必要な知識を習得し、迅速に診断治療できる技能の基本を身につける。

II 行動目標 (SB0s)

1. 入院から、病状、手術説明、手術準備
2. 手術
3. 術後管理から退院

3段階の流れを追えるような研修をして、呼吸器外科および心臓血管外科疾患の外科治療の流れをつかむ。

III 方略 (LS)

1. 入院から、病状、手術説明、手術準備
 - ①呼吸器外科・心臓血管外科領域の基本的診断法（病歴聴取、血管造影やCT、MRIなど）を研修する。
 - ②術前術後の患者状態の把握とリスク評価ができる。
 - ③手術説明に立合う。
2. 手術
 - ①手洗いをして大小手術の助手を務める。
 - ②圧迫止血法、皮膚縫合法などの基本的手技を順次取得する。
3. 術後管理から退院
 - ①ICUでの呼吸循環管理の基本を学ぶ。昇圧剤、強心剤など薬物投与法、体液バランスの把握、IABP・PCPS・HDの管理、レスピレーターやペースメーカーの扱い、不整脈の管理など。
 - ②ICUでの小手術を研修する。気管切開、胸腔穿刺、胸腔ドレナージ、ミニトラキ挿入など。
 - ③カンファレンスで指導医監修のもと症例のプレゼンテーションを行う。
 - ④術後患者の退院調整を地域連携部とともに行う。

生命に直結する事項が多いため、主治医と共に相談、討論しながら実行して経験を重ねることが寛容である。

IV 経験すべき診察法・検査・手技

1. 圧迫止血法
2. 穿刺法（胸腔）
3. ドレーン・チューブ類の管理
4. 創部消毒とガーゼ交換
5. 皮膚縫合
6. 除細動

V 経験すべき疾患

1. 虚血性心疾患
2. 大動脈瘤（急性大動脈解離、真性大動脈瘤）
3. 弁膜症（僧帽弁膜症、大動脈弁膜症）
4. 動脈疾患（閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞）
5. 静脈・リンパ管疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫）
6. 胸腔鏡下手術（肺癌、肺腫瘍、気胸など）
7. 縦隔腫瘍手術
8. 胸痛疾患

VI 評価（EV）

1. PG-EPOCによる評価を行う。